

都市再生整備計画 事後評価シート
十和田市中心市街地地区

令和 6年 1月

青森県十和田市

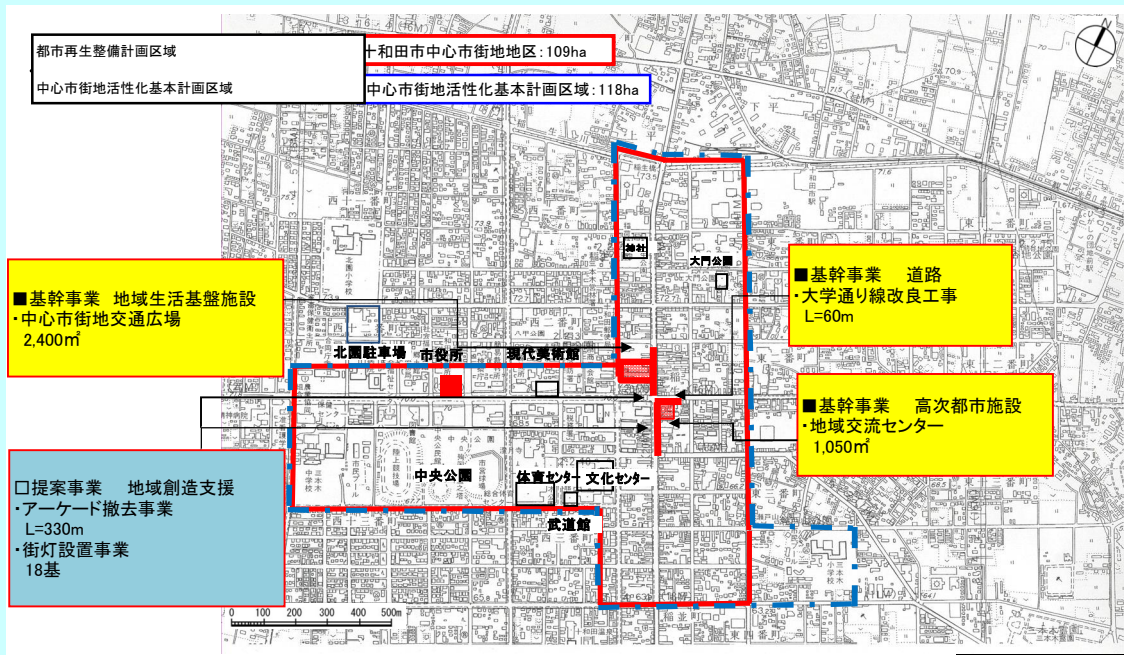
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	青森県		市町村名	十和田市		地区名	十和田市中心市街地地区			面積	109.0ha		
交付期間	平成31年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	1,993.6百万円	国費率	0.5				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
			基幹事業	道路(市道大学通り線)、地域生活基盤施設(広場)、高次都市施設(地域交流センター)									
	新たに追加した事業		提案事業	アーケード撤去等									
			基幹事業										
	提案事業	待合室、事業効果分析											
当初計画から削除した事業		提案事業	(待合室)民間事業者で待合室を含む建物を建築することとなったため令和4年9月に計画変更して削除(事業効果分析)委託を取りやめたため令和5年3月に計画変更して削除										
新たに追加した事業		基幹事業											
提案事業		提案事業	アーケード撤去事業に伴いアーケードに設置されていた照明がなくなるため歩行者の安全確保を目的にアーケード撤去区間に街灯を設置										
交付期間の変更		当初	平成31年度～令和5年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし						
		変更	平成31年度～令和3年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	歩行者・自転車通行量	人/日	4,651	H30	5,604	R5	モニタリング	評価値	×	あり なし ●	近くに施設が整備された調査地点においては通行量が従前値より2割以上増加したが、その他の調査地点においては通行量が従前値より2割以上減少したため、目標を達成することができなかった。	R6年8月
	指標2	空き地・空き店舗数	箇所	52	H29	39	R5	51	50	△	あり なし ●	コロナ禍の影響を受け空き地・空き店舗数は令和2年度に59箇所まで増加したが、最新の調査では目標値には届かないものの従前値を下回り減少傾向にある。	R6年1月
	指標3										あり なし		
	指標4										あり なし		
	指標5										あり なし		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1							モニタリング	評価値				
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等		
	モニタリング	庁内に横断的な調整部会を設置し、関係課と連携して、事業計画の管理・調整や進捗状況の確認等を実施した。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					●	完了	
	官民連携による取組					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり体制の構築					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							

様式2-2 地区の概要

十和田市中心市街地地区(青森県十和田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
大目標 アートの感動を共有し、賑わいと暮らしが共鳴する街とわだ ～市民の暮らしを支え、人々が集い・活動する中心市街地を目指して～ 目標1 芸術・歴史・文化を活かした、魅力的な市街地の形成 目標2 歩いて暮らせる安心・快適な生活環境と、利便性の高い市街地の形成	歩行者・自転車通行量	単位:人/日	4,651 H30	5,604 R5	3,475 R5
	空き地・空き店舗数	単位:箇所	52 H29	39 R5	50 R5
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R
		単位:	H	R	R



まちの課題の変化
・地域交流センターや交通広場の整備により中心市街地の魅力の向上に寄与したが、コロナ禍の影響によりイベント開催等の自粛もあり、来訪者や外出機会が減少した。人の流れや経済活動も徐々に回復に向かうと考えられ、引続き現代美術館周辺の交流人口を中心市街地エリアまで回遊させ都市活力への効果波及を図る取組が重要となる。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)
・現代美術館をはじめとするアートの活用や地域交流センターにおけるコミュニティ活動の強化により、都市空間の魅力向上と商店街の活性化を促進します。バス・タクシーの結節点とまちなか交通広場における、利用者の利便性の向上や公共交通の利用促進を図り人が集まりやすい都市構造を構築することで中心市街地の賑わいを創出する。